

おだわら

昭和45年 8月

編集・発行 小田原市役所広報課 印刷(株)文進堂

小田原市城内3番22号 TEL 250 電話 22-1111

昭和29年10月25日 第3種郵便物認可 毎月1日発行1部3円

人口… 156,767 世帯… 37,274 (7月1日現在)

台風X号は、ほとんど勢力がおとろえないまま小田原付近に上陸した。このため、箱根連山、丹沢山系の山岳部に日雨量400ミリメートルの豪雨が襲い、酒匂川及び早川等の河川は急激に増水し、成田地先第三水源地付近の酒匂川500メートルと早川、風祭で早川護岸の一部が決壊した。また中小河川があふれ、各所に床上や床下浸水の被害が続出し相当の田畠が冠水した。さらに、台風上陸時と満潮が重なったため、津波(波高6メートル)の被害も加わり、各河川は、河口付近で逆流、上流において溢水した。一方宅地造成された城山、荻窪の一部は、土砂くずれの危険にされている。なお、これによる被害は、床上浸水520戸、床下浸水8,000戸、土砂くずれによる被害家屋60戸、津波による被害家屋770戸、これらの被災人員は、39,258人と判明した。これは、小田原市地域防災計画の中で、最低中心気圧940ミリバール、最大瞬間風速60メートル暴風半径300キロメートルの大型台風が小田原市を直撃したときを想定して書かれたものです。



ここ数年、幸いにも小田原は、台風による被害をほとんど受け、死者いません。しかし、私たちの記憶に生々しい昭和33年のアイオケマダ。さらに翌十四年のキ

小田原市地域防災計画にいう台風X号は、いつ架空のものから現実のものになるかわかりません。

私たちの郷土小田原は、箱根、

丹沢などの山岳地帯から注ぐ急流

河川が多く、海岸線も約十五キロ

あまりに遙、その他傾斜地や中

小河川付近の急激な宅地など、自

然的人為的条件から、ひとたび

超大型台風に襲われた場合、予測

しがたい被害が発生する可能性を

もっています。そこで、台風によ

ってもたらされる災害を小田原に

あてはめてみる第二次のようになります。

◆烈風による窓ガラスの割れ、倒壊

烈風による窓ガラスの割れ、倒壊

道路交通法が一部改正

—8月20日頃から実施—

このほど、道路交通法が次のとおり改定されます。

お車を運転することはできません。

の強化

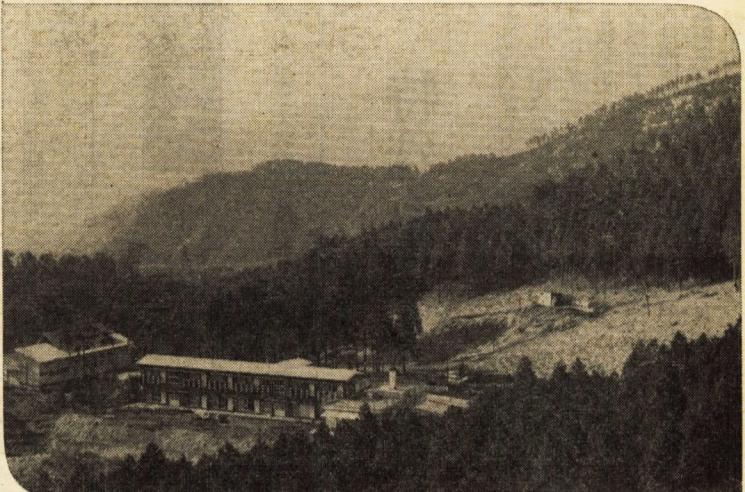


↑楽しい飯ごうでのご飯たき



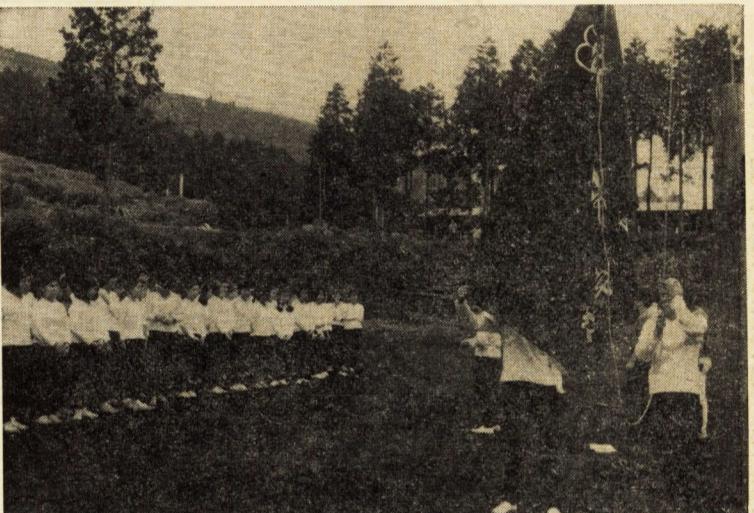
→夕暮せまるころ鐘の音が清らかに流れる

話題の広場



↑香ぐわしい冷風に包まれた青少年の家

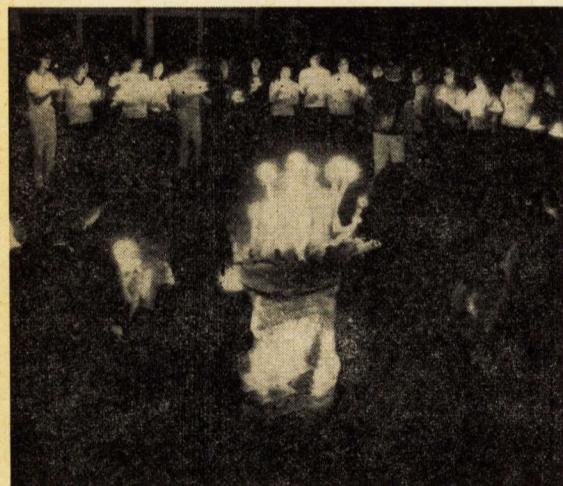
←セレモニーは校旗掲揚で幕開き



★ 目ざめ
杉林を淡く包んだ朝霧が流れるように静かに消えていくと、山々のシルエットが次第に立体的な重なりを見せる。急に、あちらのテント、こちらのバンガローに明るい声が響くやかにはずみ、おどるように林を縫つて炊事場にいそぐ姿がふえて、塔ノ峰の朝があけた。

★ 活動
夏の一日は広場のセレモニーから始まる。国旗が校旗が掲揚され、キャンプ生活の意義が話される。輪が解けて、待ち兼ねたようにハイキングに出かけるグループ、円陣の中にテンント張りの実習が進み、笑声がはずんで次々と計画は消化されていく。

★ ファイヤー
共同生活の楽しさは夜に集約される。澄んだ鐘の音が夜の幕開きだ。キャンプの神秘的な光に、キャンプ・ファイヤーの原始的な炎に歌が、ゲームが尽きることを知らない。終宴を惜しみながら一つまた一つ木の間の灯が消え、夜のじしまが深く安らかな眠りをとざすとき、楽しかった一日は終った。



↑キャンドルは忘れぬ思い出



↑勢よく燃え上るキャンプファイヤーに歌声がはずむ



↑テント張りの実習は欠かせぬスケジュール

おしらせ

対象 小・中学生
応募作品今までに読んだ本の感想をまとめてあるノートから

読書ノートコンクール

応募点数一人一点

選んだものや、新しく読んだ本の感想を書いたもの
用紙と字数四百字、詰原稿用紙を使用し、小学生は三枚以内

日雇健保協制適用の取り扱いが廃止
電話22-1111番

応募のきまり次のことを別
に付けてください。作品の本文には、学校、学年、氏名は書かないでください。

当者は、お忘れなく国民健康保険加入の届け出をしてください。お問い合わせにならない点は、保険年金課(電話22-1111)へおたずねください。

国民健康保険の手続きはお早めに
手続を勤め先の会社などに勤務して、新しく会社などに勤務して、その加入了の社会保険の被保険者または支所へお早めにお届けください。

勤め先の保険に加入しているか

勤め先の保険に加入している

